「地域は生きたミュージアム」

ムササビが教えてくれること

都留は人のくらしと自然の距離が近く、ムササビの住む森があります。都留の動植物について
そして学びについて、都留文科大学教授の北垣先生にお話しいただきました。

北垣憲仁 都留文科大学教授
研究テーマのカワネズミの写真と

大人になっても学びは無限

身近な発見を深めよう

「自然観察には、目に見えるもの、実際に触れられるものを五感で感じとり、手応えを得られる面白さがあります。身のまわりのものを観察することで、地球環境の変化にも気づくことができます。不思議がり面白がることで、知識に邪魔されずに、子供の頃持っていた、美しいものを美しいと思える感性を磨き直すことができます。生きたミュージアムというのは身近にあるのです。」

観察ではなんでもじっくり見ること、そして生き物との出会いを急がずに、生活の痕跡を見ることが大切とのこと。北垣先生が定期的に開いているムササビ観察会で、私は毛のついた(!)丸くて小さなムササビのフンを拾って大興奮でした。（小野田　麻里）

森の保全

ムササビの生活圏

ムササビは夜行性の小動物で、リス科の滑空できる生き物です。昔は身近な所で生活していました。神社の大木の洞の中に巣を作り、木の皮を中に入れ細かく削って床としていました。日中は寝ていて、夕方他の動物たちが寝静まった時に起き出し、巣穴から出て周りを確認してから、木の頂に登り飛び出します。

手と足を広げると翼があらわれてハンググライダーのように空を飛び、次の木に移ります。何回か繰り返して餌場に行きます。メスの餌場は100m四方、オスは倍の広さが必要です。明け方に帰巣する生活です。近年は大木も少なくなり、住処を追われ山の奥深くに移り住んで生活しています。近くで観察できた小動物たちの生活圏の中に入っていかないと見ることができません。

森林を保全することで、動物の保護に繋がり、人の営みも良くなって行くのでは、と思います。（西野　一）

ムササビを観察できる森を整備中

新しい学びの場

野外へいざなう博物館

つるフィールド・ミュージアムは
誰でも利用可能

都留市の自然には、多様な環境に適応してきた哺乳類が生息しています。世界の秘境に出かけなくとも、生態や行動の基本が地域で学べる恵まれた環境です。その不思議や面白さを伝えてくれる北垣先生の講座を聴き引き込まれました。

この豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐ必要があります。昨年完成した「つるフィールド・ミュージアム」を拠点に、今ある自然をよく観察し、その働きを学んでいくことで人間と自然とのより良い共生が実現できるのではないでしょうか。（卜部　純子）